

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.foo.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第37回

2016年
4月23日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。参加無料

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)

※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。

※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



モスクワ放送を生きた人々 東一夫、木村慶一、ムヘンシャン

報告者：島田顕

1942年、モスクワ放送は日本語放送を開始した——



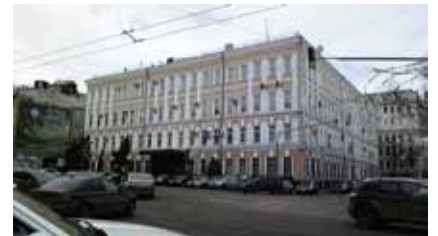
ムヘンシャン



木村慶一



東一夫 「ミール・ロシア語研究所 55年の軌跡
生徒の文集」より



モスクワ放送旧館

戦中から戦後直後にかけて、モスクワ放送の職員をつとめた三人を追う。

一人はモスクワ放送局日本語放送の最初のアナウンサーであるムヘンシャン。故郷、そして遺族がようやく判明し、訪問取材ができた。

二人目は木村慶一。ハバロフスク放送局日本語放送の初期を支え、シベリア抑留者の便りを伝えた人物。ご子息を探し出し、樺太からハバロフスクへ至った話、さらに戦後帰国後についてうかがった。

最後は東一夫。言わずと知れたロシア語教育の第一人者であるが、ハバロフスク局、モスクワ局に勤務していたことはあまり知られてはいない。モスクワの文書館で発見した個人ファイルから、ロシアに入った事情からハバロフスク、モスクワでの暮らしぶりが明らかになった。

この三人の生涯をたどりながら、初期のモスクワ放送の内情を明らかにする。

●島田 顕(しまだ あきら)

1965年横浜市生まれ。ロシアの声(旧モスクワ放送、現ラジオ・スポーツニク)日本語課翻訳員兼アナウンサーを経て、関東学院大学経済学部および法政大学理工学部講師、博士(社会学)。